

収録・解説 酒井董美

語り手 大原寿美子さん  
(明治40年生まれ)

昭和54年10月7日収録

あらすじ

昔、とても貧乏な家があった。大歳の晩に家の取れる柱は取って囲炉裏にくべて火に当たっていたら、奥の方から出てくる者がある。おじいさんで髪も口髭も白髪だらけ、ぼろの着物を着て囲炉裏へ座る。亭主が怒って「だれじゃ、人の家の奥の間から出てくるもんは」。貧乏神じゃ」「貧乏神じゃと。うらの家はこれだけ貧乏して困りよるのに」と言ったら「うら、この家に入りこんでから8年たつ。こんなにばかりおるじゃ」と言った。「何でうちばかりおらにゃならん」

## 貧乏神と福の神

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

## 生活を豊かにしたい願い

でここにいろげんじゃろげん(動けん)じゃ。(居座る、の意味)「とどげんさえなりたけりや言う。」(何とかしたければ)、

「ここにクドがあるうこのおっかあをばい出が。その前へカンスを入せ。追い出いたら言うておつたけど、こげえ難儀しちよつたらかなわらん。おまえも別れりやあせえ」。おっかあはしづが出て行った。

正月2日に殿さんのおちり。

### 解説

国替えで、行列が「下へ、下へ」と通るから、亭主はこのときこそと、類話は全国的に存在して、1週間したくない。

「待て待て、1週間したくない。」

「このような話が好まれるのは、昔から貧乏人が多く、何とかして福の神を豊かにしたいという願いが、庶民の間にあつたからである。」

(元鳥取短期大学教授) (水曜日に掲載)

亭主はかき集めたり、